

第82回スタディグループ分科会結果報告

運営委員長 村田耕治

(文責：阿部)

1. 開催日時 2019年12月12日(木) 14時30分～16時55分
2. 開催場所 文京区民センター 3階3-C会議室
3. テーマ 「不祥事の未然防止と早期発見に対する監査役等と内部監査部門の実務連携」
4. 発表者
リーダー 三菱電機インフォメーションネットワーク(株) 常勤監査役 浅見公一氏
コーディネータ 東京パワーテクノロジー(株) 常勤監査役 松下洋二氏
メンバー 王子エンジニアリング(株) 常勤監査役 田島 洋氏
5. 出席者 38名(含む発表者)
6. 配布資料
 - 1.資料①テーマ概要
 - 2.資料②不祥事と監査役(関連図)
 - 3.資料③アンケート結果
 - 4.資料④不祥事事例一覧
 - 5.資料⑤内部通報制度について
 - 6.資料⑥不祥事予防のプリンシプルとの関係
 - 7.参考資料:上場会社における不祥事対応のプリンシプルの策定について
上場会社における不祥事予防のプリンシプルの策定について
7. 議事次第、意見交換
(前半 14:30～15:35):
 - 1) 村田運営委員長の開会挨拶に続き、松下氏から、テーマ選定の背景の説明がありました。
 - 2) 次に浅見氏より、当分科会では「未然防止と早期発見に重点を置いたこと」とりわけ「早期発見」に重点をおいた、との導入説明があり、続いて資料①、②に基づき、概要の説明がありました。
 - 3) 続いて、田島氏より、資料③アンケート結果の説明があり、資料④監査懇話会会員各社の不祥事事例(11例)の具体的な内容について説明がありました。
 - 4) 次に、浅見氏より、資料①、⑤に基づき、内部通報制度を含め、不祥事発見について説明がありました。休憩10分
(後半 15:45～16:55):
 - 5) 浅見氏より、資料①の不祥事対応、再発防止策について説明がありました。
 - 6) 次に、松下氏より不祥事予防のプリンシプルの要点についての説明があり、来月1/29 監査技術ゼミでの竹内弁護士の講演会も紹介されました。
 - 7) 以下「不祥事の発見」と「対応・再発防止策の展開」の2点についてディスカッション
 - ① 「不祥事の発見」について
発見の有効な手段である、内部通報について、多くの意見が出され、

1. 監査役窓口を設けているのは出席会員のうち、4社でした。
監査役に自発的に情報が上がってくる風土の醸成が大事、かつ、監査役はその窓口たる人格を備えなければならない。
 2. 通報しやすい窓口になっているかが重要。外部弁護士窓口も有効である。
また、監査役にもタイムリーに情報が入る体制を確保することが大切だ。
 3. 通報に対して、会社がどういう対応をとったか、示す・見せることも重要。
(改善への期待⇒信頼関係の醸成につながる)
 4. 女性専用の窓口も効果的。但し、適任者を置くことが難しい。
- ② 「不祥事対応、再発防止策の展開」について
1. 社外監査役にも平等に情報が流れるようにしている。コンプライアンス会議を毎月開催し、発生した不祥事対応のフォロー状況を毎月確認する。制度の整備だけでなく、「運用」が大切である。
 2. トップ(上層部)のPR、覚悟の発露も効果がある。トップが取り組む本気度を示せば会社の雰囲気が変わる。
 3. 防止のための規程・マニュアルへの落とし込みを行う。但し、それを見ないのでは意味がないし、「ルールの厚着」も意味がない。⇒実効性をどう確保するかが課題である。

以上